

## 庁内ワーキングチーム意見まとめ

※現行計画の体系に沿った分類で示しています。

※各意見の末尾記号は、課名の頭文字（市：市民活動推進課、多：多文化共生・交流課、防：防災課、環：環境政策課、地：地域支援課、高：高齢者支援課、子：子ども子育て支援課、生：生涯学習スポーツ課、ブ：武蔵野プレイス、社：市民社会福祉協議会）

現行計画の体系			庁内ワーキングチーム意見
基本施策	施策	施策の概要	
1 市民活動の 裾野の拡大	重点 施策 (1)市民活動のきっかけづくり	ボランティア意識向上に向けた場の提供や、活動のきっかけの場の提供、地域の魅力発信による参加につなげる地域の魅力発信を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担い手の確保については、若者を対象にした事業と参加の呼びかけなど、対象を明確にした上でその対象に合った方策があるとよい。（市）</li> <li>○参加者負担を軽減する方策の検討も必要である。（例：ライフスタイルやスキルに応じた柔軟な参加要件の設定、オンライン参加の導入、業務負担の改善、「入ったら抜けられない」雰囲気打破）（市、高、社）</li> <li>○参加体験の場の設定など、第一歩のハードルの解消が必要。（社）</li> <li>○長期的観点では、小中学生等対象の参加体験もあるとよい。（社）</li> <li>○活動の恩恵に与った人が担い手として手を挙げていく循環がある（子）</li> <li>○一方、高齢者中心の活動では、その循環が高齢化に伴い先細る。（社）</li> <li>○「市民活動」という言葉自体にハードルの高さがある。（環）</li> <li>○きっかけづくりとともに、団体側の受け入れ体制・意識を整える必要がある（市）</li> </ul>
	(2)多様な活動につながる情報の提供	市民活動団体の情報を多様な媒体と機会を通じて提供するとともに、地域の社会的な課題に関する情報など、活動のテーマにつながるような情報についても提供していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報の工夫・充実が求められる（SNS・デジタルコンテンツの活用、プロボノ等技能を有する方の協力など）。（多くの課から。プロボノは社）</li> <li>○新しい担い手と現在の活動者の双方の思いを理解し、つなげていく取り組みが重要。SNSアカウント運用等について若い方が団体への指導的立場を担った例では、団体の活動者側のニーズと、「市民活動に興味はあるが関わり方が見出せない」という層とをつなぐことができた。（社、ブ）</li> <li>○市民活動の情報を必死に探さずとも手に入るよう提供する必要がある。（社）</li> <li>○担い手不足の対策として、PTAなど幅広い対象への周知。（防）</li> <li>○活動の楽しさを感じられるような情報発信（動画等）が重要。（環）</li> </ul>
2 市民活動の 促進と 自律・自立 に向けた 支援の充実	(1)情報提供の充実	他団体の活動情報や団体運営に必要な情報、さらには助成金や融資制度など財政支援につながるような情報など、市民活動の多様性とステージにあわせ、自律・自立につながる情報を提供していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○状況に応じた支援をプレイスで展開していけるよう、プレイス登録団体の状況をヒアリング等により捕捉していくことが求められる。（ブ）</li> <li>○団体運営支援に関して、アドバイザーの紹介等も求められる。（社）</li> <li>○情報のタイムリーな発信が必要。（ブ）</li> </ul>
	(2)相談体制の充実	市民活動団体の団体運営や事業内容等に関する相談に対応する体制の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結成の段階も含め、組織としてのステージに応じた組織運営支援が求められる。（ブ）</li> </ul>
	(3)財政的な支援	補助金制度の見直しを行うとともに、資金調達のための情報提供の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動資金の確保に向けた取り組みを団体自身が行えるよう、その方法について、団体のステージに応じて学べる機会の提供が求められる。（社、ブ、環）</li> <li>○プレイスの団体企画講座を活用してもらえるよう企画講座自体の周知を今以上にすることも求められる。（ブ）</li> <li>○補助金メニューの充実に伴い、重なっている部分もあるため、利用者の利便性の観点からも整理が必要。（市）</li> <li>○団体が求めている情報が届くよう、他組織が行っている支援も含め、団体にあった情報提供ができると良い。（生）</li> </ul>
	重点 施策 (4)市民活動に関する学びの機会の提供	講座等の開催により、市民活動の多様性とステージにあわせ、必要な意欲・能力の向上の場を提供します。あわせて、地域課題を体系的に学ぶ場の構築を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織運営、特に会計関連の知識習得が課題である。（市、高、生）</li> <li>○組織運営では、新たな参加者の受け入れ方やメンバーのモチベーションの維持のためのノウハウ・スキルを学ぶことも必要（市）</li> <li>○団体内で特定の立場の人員に蓄積された知識・経験を継承していくことが求められる。（高）</li> <li>○担い手が世代交代すると運営方針・課題の継承をする必要がある。（地）</li> </ul>

※現行計画の体系に沿った分類で示しています。

※各意見の末尾記号は、課名の頭文字（市：市民活動推進課、多：多文化共生・交流課、防：防災課、環：環境政策課、地：地域支援課、高：高齢者支援課、子：子ども子育て支援課、生：生涯学習スポーツ課、プ：武蔵野プレイス、社：市民社会福祉協議会）

現行計画の体系			庁内ワーキングチーム意見
基本施策	施策	施策の概要	
	(5)交流の促進	武蔵野プレイスを活用する等により、市民活動団体の交流機会の場の提供や、異なるセクターとの連携を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○団体間の交流により、成功事例・ノウハウの共有や、相互の相談・協力関係の構築を進めていくことが求められる。（市、防、高、生、社、子）</li> <li>○他団体の話を聞く交流会を設けると、活動のコツや連携アイデア等が生まれている。（子）</li> <li>○団体間の交流を求める声はあるが、その交流を団体が主体的に行っていくしてほしい。プレイス主体の場だけでなく様々な方向でつながりが生じる仕組みづくりを強化できるとよい。（プ）</li> <li>○「交流の場」として設定しても集まらない。企画で集めた後に交流機会を設ける等の工夫が必要。オンラインの場の設定も行っている。（プ）</li> </ul>
	<b>重点施策</b>	(6)コーディネート機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○複雑化・多様化する課題やニーズに対応すべく、地域としてコーディネートしていく体制作りを進めます。</li> <li>○コーディネートの強化が求められる。（市、多、環、高、子）</li> <li>○課内にコーディネーター機能を担う職員を設置している。各団体と積極的にコミュニケーションをとり、活動相談にのることで、資源の把握及び継続的なモチベーション維持につながる。活動を横につなぐキーマン・お世話役を一定程度専任で行える体制があることが望ましい。（子）</li> </ul>
3 市民活動の場の利用促進	(1)武蔵野プレイスの有効活用	テーマやニーズごとに市民活動団体同士をマッチングできるコーディネート機能の強化や相談体制の確立、市民活動に関する情報の発信や講座の開催など、武蔵野プレイスを活用した様々な支援を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークラウンジ、プリント工房、情報コーナーなどの既存施設の一層の充実と広報の強化が求められる。（プ）</li> <li>○団体の広報支援として、情報発信機能の使いやすさ向上と周知、また利用することでの「旨味」の提供が必要。（プ）</li> </ul>
	(2)多様な活動の場の情報提供	コミュニティセンターをはじめとした様々な公共施設や公共施設以外の利用可能な施設等についても、幅広く情報を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動場所の確保が課題となっているケースがみられ、情報の提供等を行っていくことが求められる。（子）</li> <li>○資金面の問題で、出費を要する場所の借り上げは難しいケースもみられる。（子）</li> </ul>
4 課題解決のための「連携と協働」の推進	(1)連携と協働に向けたネットワークの構築	協働に関する情報提供を行うとともに、企業・大学との協働に関する相談・情報提供や異なるセクターとの交流の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動場所や人材等の確保に向け、民間事業者等との連携を図っていくことも求められる。（高、子）</li> <li>○庁内各課の連携により、課題意識の共有や、課題解決の方策の検討等が求められる。（市、高、生、子、多）</li> <li>○「事業所としてボランティアしたい」という話を受けることもある。（社）</li> <li>○連携は重要であり、顔見知りになれば相談もしやすい。（環）</li> <li>○企業からの人員や学校教員も参加する連携会議を開催しており、新たなつながりが生じる例もある。（環）</li> </ul>
	(2)協働に向けた体制の整備	「連携・協働」の考えを共有し、職員の協働に対する理解の促進と知識の習得を図るとともに、地域の情報や課題を、市民と行政が相互に学ぶことのできる場の構築を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○団体と協働での担い手づくりが求められる（活動体験の場の設定、イベントの開催など）。（社）</li> </ul>
現行計画にない新たなトピック	コロナ禍・後への対応 オンラインの活用	<p>【R2年度以降の取組み例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民活動マネジメント講座「Zoom活用講座」「Zoomのすすめ」（プレイス）</li> <li>○ぶらっとプレイス「初めてのZoom体験」「Zoom会議で集まろう」（プレイス）</li> <li>○Zoomボランティア養成講座（市民社協）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル化・オンライン化への対応状況には、団体による差異がみられ、導入・推進の取り組みが求められる。（環、社）一方、その技術指導については、1対1で1時間つきっきりの指導や、事前の電話質問対応などを要するものであり、労力が相当に必要である。（プ）</li> <li>○オンラインの企画を行う際、プレイスにおける回線混雑で不具合が生じており、環境の向上が必要。（プ）</li> <li>○地域社協のオンライン化を進めており、TwitterやFacebookも立ち上げているが、立ち上げ支援等の技術指導のパッケージ化も必要。（社）</li> <li>○オンラインのツール・コンテンツを利活用しない人に対し、無理に使用させる必要があるのか、判断が難しい。（環）</li> </ul>